審議会等会議録(概要版)

審議会等の名称	第3回山口市総合計画策定協議会
開催日時	令和8年9月28日(月曜日)10:00～12:00
開催場所	山口市役所本庁舎 5階 会議室503・504
公開・部分公開の区分	公開
出席者	重松宏武委員、長谷川真司委員、藤井智佳子委員、佐藤真澄委員、桑原智恵委員、白石レイ委員、鈴木春菜委員、渡部博文委員、坂本京子委員、眞田直也委員、三浦宏之委員、山﨑麻里委員、柴﨑浩憲委員、戸田岸類委員、田中貴光委員、柴田まゆみ委員、兼清未知留委員、山根早紀委員、野中春那委員
欠席者	－
事務局	山口市総合政策部企画経営課
次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 （1）「(仮称)ずっと元気な山口プラン」（次期山口市総合計画）について ・人口動態等 ・まちづくりの状況（安全安心・環境・都市分野） （2）白石　レイ　委員からの話題提供 （3）柴田　まゆみ　委員からの話題提供 （4）意見交換 4 今後の日程 5 閉会
内容	次第に基づき、以下のとおり進められた。 <u>1 開会</u> 【事務局】 (資料の確認を行った。) <u>2 会長挨拶</u> 【会長】 改めましておはようございます。 本日は、第3回というところで、ずっと元気な山口プランのまちづくりの状況、安全安心・環境・都市分野について、事務局からご説明いただいた後、白石委員、柴田委員から話題提供をしていただきます。 ぜひ、将来の山口の発展に向けて、活発なご議論をいただければと思います。 また、私もそうですが、今期からご参加いただいている委員の方は、1回目、2回目を通じて、ようやく雰囲気がわかって、エンジンがかかってきた頃かなと思っております。 ぜひ一言、時間内にご発言をしていただけると助かります。 本日はよろしくお願いいたします。

	3　議事 【会長】 　それでは次第に従いまして、議事に入らせていただきます。 　本日は、安全安心・環境・都市分野におけるまちづくりの状況についてご説明いただき、また、白石委員、柴田委員からの話題提供をいただくことになっております。 　委員の皆様にはそれぞれの立場から、忌憚のないご意見をいただければと思います。 　それでは進めさせていただきます。 　議事の(1)につきまして、事務局からご説明をよろしくお願いいたします。 (1)「(仮称)ずっと元気な山口プラン」(次期山口市総合計画)について 【事務局】 (資料1 「『(仮称)ずっと元気な山口プラン』(次期山口市総合計画)について」説明を行う。) 【会長】 　どうもありがとうございました。ただいま「(仮称)ずっと元気な山口プラン」について説明がございました。ご質問等ございますでしょうか。 【A委員】 　インフラ関係について、3点質問とコメントをさせていただきます。 　まず1点目は、水道事業についてです。道路関係については、老朽化の状況やその対応について、いろいろとご説明いただきましたが、水道事業についても、昨今の事故等により皆さんの関心が高まっていると思いますので、施設の劣化や老朽化の状況、更新の見通しについても、資料に記載していただいた方がよいのではないかと思います。 　また、ご説明の中では、将来的に水道料金があまり上がらないようにという配慮が感じられましたが、大きな事故が起こってから料金を引き上げるよりも、計画的な更新を踏まえて、段階的に少しずつ見直していくという方法もあるのではないかと思います。専門的な観点からは、そうした方法についても検討する必要があると考えておりますので、その点についても記載していただいてよいのではないかと思います。 　2点目は、道路整備についてです。各事業については、整備の目的などを整理していただいており、それぞれの事業としては筋が通っていると思いますが、全体として見ると、少し整合性が分かりにくい部分もあると感じました。 　例えば、41ページには、通過交通の市街地への流入抑制を目的として、都市核外郭環状道路を計画するという記述があります。一方、29ページの居住誘導区域のところでは、地域拠点や幹線道路沿いに生活機能の集積を図るとされています。 　幹線道路を通過交通のための道路として使いたいのか、生活機能を誘導して一般

	の方が日常的に利用する道路として使いたいのか、その関係性が少し見えにくく、まちづくりのビジョンが伝わりにくいと感じましたので、部署間で連携していただく必要があるのではないかと思います。 　3点目は、地域拠点についてです。コンパクト・プラス・ネットワークの考え方に基づき、山口エリアと小郡エリアを都市機能誘導区域に指定されていますが、立地適正化計画のイメージを見ると、都市の中心部から少し離れたところにある、小規模な生活機能を備えた地域拠点も、非常に重要なものとして位置付けられていると思います。 　コンパクト・プラス・ネットワークは、都市の中心部に機能があればよいというものではなく、それぞれの生活圏の中に、日常生活を支える機能の中心が必要であるという考え方だと思います。 　その観点からすると、人口10万人以上の都市としては、地域拠点の配置が少し弱いように感じました。また、地域拠点に生活機能をどのように集約していくのかという視点も弱いように感じましたので、補足等があればお願いしたいと思います。 【事務局】 　水道施設の老朽化とその更新についてですが、水道事業では経営戦略を策定しておりまして、その中で老朽化対策等に取り組んでおります。 　具体的には、年間18キロメートルを目標に管路の更新を進めているところでございます。今後も老朽化が進んでいく中で、現時点では管路の経年化の割合を抑えられている状況でございます。 　また、水道料金の改定につきましては、その都度、水需要の状況も見ながら検討していくことになると考えておりますが、将来的に料金が全く上がらないということではございませんので、その点は御理解いただければと思います。 【A委員】 　ご説明ありがとうございました。 　老朽化の状況が比較的見通せているということであれば、ぜひその点を安心材料として、しっかりと市民の方に発信していただければと思います。 <u>(2)白石　レイ　委員からの話題提供</u> 【会長】 　続いて、議事の2番目です。白石レイ委員から話題提供をいただきたいと思います。 　白石委員、ぜひよろしくお願いいたします。 【白石委員】 　今日は、「これからの『地方』を考える」ということで、お話しします。私の専門は建築・都市でして、今いただいたご説明にも、コンパクト・プラス・ネットワークという様々な施策がありました。私もそうした施策を推奨する立場ですが、その先にどのような未来が

	あるのか、価値観のパラダイムシフトのようなことが起きていると感じています。 　そのことについて、私独自の情報というよりは、最近読んだ面白い本を、ぜひ皆様にも読んでいただきたいという思いで、いろいろご紹介したいと思っています。 　今日は、コンパクトシティの先に何があるのかということ、新しい地方論として私が着目しているものをご紹介します。また、手がかりとして公教育が大切ではないかと最近思っていますので、そのことと、最後に山口市に立ち返って、私たちはどうしたらよいのかについてお話ししたいと思っています。 　先ほどの説明にもあったような、公営住宅や共同的な集合住宅の暮らしのつくり方、参加型デザインやワークショップ、あるいはフィリピンのスラムの防災移転やスイスの住宅づくりなど、そういうところが専門になります。 　私は、福岡から山口に来て、地方にいるのですが、東京などの大学にいくと、フィリピンの専門家のようになって、本当にその専門のことしか相談を受けることがないのだと思うのですが、山口にいると、いろいろな田園地区をどうしようとか、そういう伝統的な建物をどうしようとか、そういったいろんな相談を受けることがあります。その中で、地方のまちづくりに、自分の専門というより、一市民としていろいろと取り組んでいます。 　最近はですね、宇部市の中心市街地で、隣の研究室に宋先生という先生がいらっしゃるんですけれども、その宋先生が、空き地の利活用プロジェクトをずっと長年やってらっしゃって、そのすぐそばにある、渡辺化粧品店という、古い空き家を学生とDIYして、コワーキングスペースとシェアハウスと、あとはゲストハウスを運営しています。 　次にコンパクトシティの話に移るんですけれども、コンパクトシティを否定するというわけではないんですけれども、コンパクトシティはコンパクトシティでよくて、この20年ぐらいそういう取組が行われてきて、本日の資料にもあったように大変具体的な取組が行われてきていてそれはそれでいいんですけれども、コンパクトシティが本当にこのまま、どこにでも、実現可能なのかということは少し疑問な部分も出てきていると個人的に感じています。 　ここで、東京大学の大野先生という先生が書かれた本について、少しお話ししたいと思います。 　日本に限らず、我々人類が初めてこの縮小という現象に対処しようとしているということです。これまでずっと社会は拡張の一途をたどってきたけれども、そういった中で低成長でも縮小しても、それ自体が問題というよりは、縮小していく中でそれに対して、我々の社会システムなどがどう変化するか、どう対応できるかということが課題じゃないかということをおっしゃっています。 　縮小の時代の特徴としては、資源を豊富に使えない。つまり、あるものを生かして何かするしかなくて、すでにあるものを生かそうとすると、その場所ごとにあるものは違うので、課題とか解決方法は、その場所ごとにユニークになってくるということです。 　さらに、コンパクトシティを標榜する一つの根拠として、例えばCO_2の排出量などが言われ、いろんなこと、インフラなどをコンパクトにしていくとCO_2の排出量が減るということですが、ただ、建物とか施設、あるいは住宅をスクラップ・アンド・ビルドすると、建

	設によって出るCO_2のほうが実は多いのではないかということです。 　コンパクトシティでは本当に歩行圏でなんでも揃うだろうか。結局、バスとか車とかが必要になるよねという話であったり。コンパクトにしようっていう政策は、ある意味、成長してきた社会の中では、その拡張を抑制する力としてはとても有効なんだけれども、例えば、もう家をみんな建て替えない、壊すことさえ難しいという状況の中で、それをどう集約化していくかというのは、そのパワーがなかなか計画には用いづらい。そうした中でどうしていくかということを考えないといけないということをおっしゃっています。 　都市計画分野では、基本的にはコンパクトシティということが、いまだに標榜されていて、このように、コンパクトシティが本当にできるのかという方は数少ない状況ですが、社会学の分野から最近出た本で「＜わたし＞からはじめる地方論」という本があります。 　ここには、誰にとってどんな豊かさを残していくべきかを考える、新しい地方論の考え方が書いてあります。1つ目は、凄まじい人口減少の現実が本当に絶望的なのか、課題なのか、あるいは機会なのかという話。それと、2つ目は、地域活性化とか地方創生という言葉はやはり中央でつくられてきた言葉で、一人称の私とか私たちが自律的にこれから何を考えていくとよいのかということ。そして3つ目は、人口の取り合い政策ではどうにもならないという中で、我々が残したい豊かさとは何だろうということです。 　この3点は私が抽出しましたので他にもたくさんいろいろ書いてあるのですが、この3点がとても面白いなと思っています。私は平成元年生まれですが、基本的にバブルを知らない、低成長時代しか知らない中で、ゆとり世代と呼ばれて、日本に希望を見出したことが一度もないんですね。その中でこの本は、日本は捨てたもんじゃないなと。日本の未来は明るいかもしれないと、初めて思わせてくれた本です。 　そこで、まず、人口減少の現実、彼が述べている事実をご紹介したいのですが、1つ目は、日本の人口はまだまだ大きいということです。 　1950年から2050年まで、日本は人口上位20か国に常に入っている状況です。人口減少のスピードが物凄いじゃないかという話もあるんですけれども、中国に比べると日本はそこまでではないという話であったり。なので、問題は、まだまだ人口がたくさんいる日本において、人口減少の変化に、仕組みの変化が追いついていないということだと言っています。 　2つ目の事実についてです。今から200年かけて何が起こるかというと、明治時代後半の人口に戻っていくだけとも言えます。明治時代後半から人口が非常に増えて、その人口が200年かけて減っていく。それだけでしかないという見方もできるということです。 　ただ、価値観や仕組みは時代によって違います。日本はグローバル資本主義とか、そういった世界の主流のメインストリームの価値観にこれまでうまく順応してきたわけです。ですが、その中で、時代の魁となる視点はどれぐらい生み出せただろうかと。我々独自の価値観とか、そういったものが日本ではどこまで考えられてきただろう。こ

	れからは考えていかなくちゃいけないよねということだと彼は述べています。 3つ目は、縮小しながら高齢化していく社会ということです。例えば人口が200年で増えて、200年で減っていくわけですけれども、決して中身が同じというわけではなくて、1960年に26%いた子どもが9%になり、6%だった高齢者が39%になるという中で、マイノリティとなる若者の声をどう拾うかとか、高齢者といっても彼らをひとくくりにしていいのかということがあると思います。 なので、人口減少は現象であって、必ずしも課題だったり問題ではないということです。私たちの社会における発展や豊かさについて考えなくちゃいけないということを言っています。 次に、2つ目、「地域活性化」、「地方創生」は中央でつくられた言葉ということです。 先日、東京に行ったときに、東京出身の東北大学に行っている学生がですね、「僕は地方都市に興味があって、大学では地方都市に行って勉強してるんです」と言うんですね。仙台ってとても大きい都市だよ、それは地方と呼べるの、と私はその時、問いかけたわけですけれども、中央にいる人たちと、我々地方に住んでいる人たちの感覚のギャップというのは意外とすさまじいものがあると思っています。 地域活性化とか地域おこしとか、そういった言葉っていうのは、東京とそれ以外、あるいは、活性化してあげる人とされる人という構図でこれまで語られてきていて、ただ、それを打破していくためには、我々がきちんと主体性を持って自律的に、私たちはこういうふうな豊かさを求めたいということを言っていかなければならないということを、彼は言っています。その中で、じゃあ地域で閉じこもろうということではなくて、中央と地方というよりは、地方と地方でいろいろ対話しながら、自律的にどういった社会を作りたいのかということを考えていく必要があるよねという話をしています。 最後に、人口の取り合い施策ではどうにもならないということです。 90年代から漠然とした人口減少に対する漠然とした不安があって、量的な指標、その最たるものが人口ですけれども、それに対して、少子化対策、子育て支援、移住促進みたいなことが言われてきたわけですけれども、これからの若者たちが爆発的に子どもを産んで、子どもが増えるということはなかなか考えづらい。総人口が減っていく中で、すべての自治体が人口増を目指すのであれば、起きることは地域間での人口の取り合いになってしまうということです。 ただ、私たちは人口が減っていく中でも「続いていく地域」の具体的なイメージをいまだに持っていない。そんな中で、どんなビジョンを持ったらいいか。どんなことが大切にされている社会が、私たちの目指したい社会なのかということを考えなくちゃいけないということを言っています。 例えば、病院や買い物施設がなくて不便だけど、不便だから子どもが来て30分送り迎えしてあげる。それは本当に問題なのか。週1回30分、子どもと話すことはとても豊かなのではないか。あるいは、児童数が少ないと小学校のいろんな活動、部活とかサークルが成立しないから、統合したほうがいいんじゃないかっていうことが基本的にあると思うんですけれども、逆に言うと、その小さな学校にはたくさんの大人の目があって、

	子ども1人当たりに対する大人の手のかかりようっていうのは、大変大きいわけですね。それが逆に豊かなんじゃないかとか。いろいろなものは考えようということがあるかと思います。 　キーワードは公教育だと思っていまして、人口8，000人の秋田県五城目町というところがあるんですけど、ここは、小学校は統廃合をするんだけれども、小学校留学とかをやって大変まちが盛り上がっているような場所です。 　近くだと、島根県益田市。20年ぐらい、社会教育にとても力を入れていて、教育界では非常に有名らしいですけれども、益田式の本当に地域主体のコミュニティスクールがあって、職員さんが常駐する公民館と小学校の機能が完全に複合化されていくようなところで、小学校は残す、中学校は統廃合するっていうことを決めて、地域の拠点としての小学校を、児童数が減っても残しています。 　他にも島根県の大田市、大森銀山では保育園留学をやってますし、島根県海士町は、公立高校で高校留学をやってたくさん人がやってきています。 　最後に私たち山口市に置き換えたときに、県庁所在都市、それだけでものすごく大きいことですけど、人口は18万人もいるともいえる。何年でどのくらい減るのだろうか、人口の取り合いを目指していないか。隣の市に比べて人口の減り具合が少なくてやったぜみたいな、何かそんなことに一喜一憂していないんだろうかと。私たちが残したいものって、私たちの作りたい未来って、社会って何なのだろうということを、長期的なビジョンで考えていく必要があるんじゃないかと思っています。 　私からの話題提供は以上です。 【会長】 　どうもありがとうございました。ただいまの白石委員からのご発表に関しまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。 　よろしいでしょうか。最後に、意見交換の時間を設けさせていただいておりますので、ご質問等ございましたらそちらでお願いいたします。 <u>(3)柴田　まゆみ　委員からの話題提供</u> 【会長】 　それでは、議事3番目に進めさせていただきます。柴田まゆみ委員から話題提供をいただきたく存じます。よろしくお願いいたします。 【柴田委員】 　それでは、皆様よろしくお願いいたします。私からは、メディアの立場から見た山口市についての話題提供をさせていただきます。 　まずは、自己紹介からさせていただきます。 　柴田まゆみと申します。愛知県岡崎市生まれ、東京、名古屋育ちで、友達も知り合いもいない中でこの山口市での生活をスタートさせまして、今月15日で丸23年となりま

	した。現在、フリーアナウンサーとしまして、YAB、山口朝日放送での、不定期ですが、リポーターとか、イベントの司会や、式典の司会、そしてCMのナレーションなどをしております。 　仕事や子育てをとおして、多くの方と出会うことができ、非常にラッキーな、そんなご縁にも恵まれまして、山口県の観光連盟さんとのご縁をいただきました時は、山口県観光エキスパートとして、観光のPRを担当させていただきました。全国放送のテレビ番組のケンミンショーで瓦そばを取り上げた、そんな特集の時には、県のスタッフとして出演させていただきましたり、思い出深い仕事でいいますとちょうど10年前になりますか、リオオリンピックの山口市の祝賀パレードでの司会を務めさせていただきました。 　そして湯田温泉を盛り上げたいという「ゆだもり」のメンバーの一員としても活動しておりまして、今年は春に行われました白狐まつりでの狐の嫁入りというのが復活したのですが、そのお手伝いをさせていただきました。そして今、こちらにテープで貼って皆さんに見ていただけるようにしておりますが、ちょうちん祭りを前に、こんこんパークでワークショップを開催しまして、湯田ゆう太、湯田ゆう子ちゃんのデコワークショップというのを開催したのですね。そこでお子様から大人の方まで、非常に大人気でして、15個先着で作っていただくのが、1時間くらいで完売してしまいました。それだけ山口市に住んでいる方というのは、山口市のアイテムが好きで、そしてそれをちょっと新しく自分流に変えることに対して、喜びがすごくあるのだなと実感させていただきました。 　本当にこのような素敵なご縁、様々なご縁をつなぐそのツールとして私が大切にしているのが、2007年に出会ったSNSです。その当時はミクシィ、そしてフェイスブックに移りまして、現在はインスタグラムを中心に投稿を続けております。今回はですね、山口市総合計画策定協議会の委員になったことを投稿させていただきましたら、閲覧数が1．3万、そして300近い「いいね」を押していただいております。フォローをしていただいている方、知り合いの方々からも、DMですとか、お会いしたときに、山口をどんどん盛り上げてほしいですとか、今すぐにでも動いてもらいたいという、熱いお言葉も頂戴しました。SNSの発信、そしてメッセージというのは、非常に今も私にとってはありがたい存在となっています。 　さて今回、話題提供の資料作成をするに当たりまして、ちょっとAIさんに活躍してもらいました。山口市のわかりやすい地図を作ってくださいとお願いしてできた2枚の地図が次でございます。 　まず1枚目、こちらは山口市北部・中部・南部地域の地図です。いかがでしょうか。色鮮やかで、見ただけでわくわくさせてくれる地図だなと思っております。これ、20秒ほどで完成してくれたのです。そのスピードにも驚きました。ですが、よく見てみると皆さんわかっていただけると思いますが、21の地域の場所が本来の位置とずれていたり、21地域あるはずなのに、そういう地域の名前が無かったりと、正確とまではいかないのですね。 　続いての地図も行きましょう。2枚目の地図、やまぐちランドと題して、ディズニーランドのようなイメージで作ってもらいました。この中央の下、山口市役所をシンデレラ城に

	見立て、YAMAGUCHIGATEというかっこいい名前があります。ディズニーランドのように、このような山口市中心部の地図を完成させましたが、こちらも湯田温泉が全体的に位置がずれているというのが、ちょっとわかっていただけると思います。パッと見て、完成しているようにも見えるのですが、やはりAIというのはちょっと完璧ではないところがあり、やはり人の目、知っている人の頭脳、手でチェックをし、発信をする、伝えることが絶対に必要なんだなということを感じることができました。ただ、こうやって見ますと、山口は楽しいまちだな、いいまちなんだなと改めて私自身も思うことができました。 　さて、皆さんは普段、気になる情報ですとか、話題をどのように得ていらっしゃいますでしょうか。災害ですとか事件事故、またエンタメ、芸能、イベントなど、様々な情報というのがあるのですが、テレビなのか、ネットなのか、両方からなのか。私は地震や災害などのニュース速報や、朝、夜、決まった時間にテレビのニュースなどはチェックをしています。そして新しく、オープンする山口市のお店情報やイベント情報などは、知り合いのお店の方から直接聞いたり、その他、インスタグラムで流れてくる情報を結構受け取っていることが多いですね。自分から調べようとする場合は、グーグル検索。急いでいる時は直接、音声検索をしたり、AIを使ったり。生活情報のほとんどは、自分に必要な情報に限って受け取っていることがすごく多いなと感じております。 　ということで、ここで必ず落とし穴になってくるのが、情報の取りこぼしも非常に多いということです。イベントやセミナーなど、終わってからニュースで知ったり。それがすごく残念で、後悔することが本当に多くあるのです。そうならないように、心がけているのは、山口市の市報をよく見たり、読んだり、近くの湯田地域交流センターに行ったり、湯田温泉の観光案内所に行ったり、狐の足あとに行ったり、山口県庁に行ったり、道の駅などに行ってそこに置いてある冊子、チラシをチェックするようにはしているのですが、持って帰ると、その枚数の多いことに驚かされるんですね。 　イベント関連、観光情報、行きたいと思う講座やセミナー、地域の集まり、ネットから紙からと、もう情報が多すぎてしまって整理するまでには至らず、頭がパニックになることもあるのです。そういった話を周りの方にすると、「よく分かる、自分もそうだよ」ということで、そういうことは私だけではなくて、市民の皆さんにも多々起きているということが、この話題提供を作るにあたって感じられました。 　そして、山口市発信の情報というのは、大変多くあるんですね。紙媒体、市報、各課から出されているチラシ、お知らせですとか、観光案内所などに置いてあるチラシ、また市役所から出されている冊子、チラシなどもあるんですね。そして今、私が手に持っている、本当に、ほんの一部ですが、こういう素敵なお土産本ですとか、山口市ふるさと納税返礼品カタログとか、すごく素敵なものを作っていらっしゃるんですね。そして、毎年1回、女性のお二人が頑張って作っているこの彩都山口、これは非常に私たち市民にとっても、バイブルになりうるような素敵な情報が満載なのですが、あと、路傍塾の案内ですとか、常栄寺雪舟庭の秋のライトアップですとか、こういうものがたくさんありすぎて、うれしいのですが、紙媒体が非常にたくさんあるということです。 　さらには、放送映像を見てみますと、市政番組。調べてみましたら、YABさんの「やま

	ぐちしま専科」、TYSの毎月第1から第3の木曜日、TYSさんでも放送されているのですが、そういった日時が実をいうとすごく細かくて、普通の日は仕事をしているので、見ることができなかったりすることが多いです。そのあとで、ホームページに載っているかというと、民放さんで放送していたものは見ることができないという、またそれも情報の取りこぼしなのかなというふうに感じているのですが、ケーブルテレビは「このまちに愛たい」ということで、市役所のホームページにもしっかりと上がっているのですね。それはいいのですが、ちょっと視聴回数が少なかったり、そういうところがすごく残念だなというふうに思っております。 　ネットのほうも、今、山口市役所の皆さん、頑張っていらっしゃって、ライン、インスタグラム、ユーチューブ。やまぐちゃんねるという名前があるんですね。調べると、初めて出会うものが、すごくいっぱいあって驚きました。 　山口市には情報がたくさんある、調べるといっぱい出てくる。なのに、ちょっと情報がない、行くところがない、イベントが何やっているのか伝わってこないんだよねという声もたくさん聞かれます。こう見てみますと、情報がないというわけではなく、分散していて届きにくいといったところもあるのかなと思っております。その中でも、今すごく頑張っていらっしゃるなと思ったのが、山口市のラインがあるのですね。これは調べてみますと、登録者数は38，500とありました。最近私もようやく知りまして、登録をしまして、バス情報、バスイットの存在も知ることができました。生活に欠かせない情報などもしっかりと設定はされているのですが、一見、安心はできるのですが、そこからどんどん追求して調べようとしていくと、山口市役所のホームページにたどり着き、結局文字数が多くて手軽に理解するのは難しいかなと感じております。必要な人に、必要以上に魅力的な情報、満足できる情報内容というのは、果たして届いているのかなというふうに疑問が残ってまいります。 　ただあるものはちょっとそろそろ見直しと整理整頓をしていただきたいなという思いを持っています。どうしても情報が多いととっ散らかってしまっていて、内容の説明、伝え方が不十分、一つのことを伝えるにしても、言葉の選び方、ニュアンスの選び方というのはすごく必要なのですが、そういったことも不足しているのではないかなと思っております。市報には載っていても、SNSには載っていない。テレビでは紹介していても、視聴者はしっかりと受け取っていない。ユーチューブやまぐちゃんねる、出していても視聴回数が少なかったり。市民が情報を探すことが必要だとは思いますけれども、市民にしっかりと届く情報の仕組み、できているのでしょうか。少し整理をして変えてみていただきたいなと思います。ただライン公式アカウントに関しましては、10月からリニューアルをすると伺っておりますので、こちらは十分に期待したいなと思っております。 　発信、到達、理解、行動まで、今後情報というのは考えていただきたいなと思います。山口市にお勤めの市役所の皆さんだからこそできることをもう一度皆さんで考え直していただけたらなと思っております。 　さあ、作った情報が生かされているのでしょうか。山口市のホームページを見てみますと、2年前のニューヨークタイムズ紙の山口市が世界の3番目に訪れる場所として取

	り上げてくれた、その動画が見られるのはいいとは思うのですが、見方を変えるともう2年前の話ではないかということ。何十分も見させられるものではなく、もう2年も経ちましたので、ちょっとショートショートに作り直して、アップをしていただくと見やすいなと思ったり。また、まだ令和の大改修、昇華のイベントが開催中ですという動画も見つけることができるのですよね。そういったところをアーカイブにしたりですとか、ちょっと過去の動画というふうに、しっかりと分けて見せていただきたいなというところです。あとはやはり、動画というものをどう捉えるか、今後、市役所の皆さんで考えていただけたらと思います。 「全部出す」ではなくて、「選んで届ける」というふうに変えていただきたいと思います。アーカイブの方に移していただいたり、また整理をしてくださって、市が伝えたい情報の順位を決めていただきたい。集中的に一本化する、という方法も、いろいろとあるのではないでしょうか。ホームページ、ライン、SNS、などの届けるということを今一度確認をしていただけたらと思います。 放送を取り巻く社会環境の変化については、テレビを見ない、テレビが家にないという、最近はテレビ不必要論もささやかれていますが、こうした放送を取り巻く社会環境の変化を見てみますと、テレビというのは、まだまだ捨てたものではないんですよね。ただ、やはり、スマホなどの普及というのはすごく確実に進んでおります。ただ、テレビというのは、まだまだ先、大切なアイテムだと思っています。今回の愛知県で行われております、アジア大会でもやはり開会式を地上波で流さなかったということで、情報がうまく届いていなかったという反省点も聞かれておりますので、そういうところ、テレビの必要性というのも改めて考えていただけたらと思います。 情報の入り口なのですが、私、夜に歩くことが大好きなので、こうやって見てみますと、看板が非常に見にくかったり、観光客の方が歩いていても、ちょっとこれはということが多いんですね。湯田温泉を歩いていましても、電球切れ、そしてライト、照明がないので、バスもわからない、さらには、八坂神社の近く、大内氏のなんとかとか、読めない看板が多々ありまして。ちょっとこういったところ、観光客、SNSに上げたいなという方たちにとっては、非常に困ったポイント、さらには、山口市矢原河川公園でもありますが、もう非常に木の看板が古かったりとか、どうして今まであるものを大切にしてこなかったのだろう、リフォームしたり、バージョンアップできていないのだろう、新しい施設を作ることも大切ですが、やはり、今まであるものを、再び見直していただきたいなと思います。この矢原河川公園を歩いていますと、山口県の看板、まだ小郡駅なんですね。そしてかわいい、新幹線、懐かしい丸型の新幹線のイラストを見たりとか、あと、香山公園にもあるのですが、高齢者健康の道というものも、表示がもうほとんど見えなかったりもするのです。これっていったいいつあったものなのかなというのを、今、私たちは知る由もないのですね。こういったところから、是非、県の看板とかも、山口市の看板とかもいろいろとあるのですが、そういったものを是非見つけなおして、バージョンアップしていただきたいなと思います。 さあ、これからの山口市は「情報を出すだけ」ではなく、「届く情報へ」に期待したいな

	というところです。山口市役所の皆さん、1705人くらいいらっしゃるということで、是非ですね、やまぐちゃんねるの視聴回数を皆さんの手でも上げていただいたり。そういった枝分かれをしていって情報をもっともっと拡散していく。確かにフェイク情報やAIの情報に惑わされることもあるかもしれませんが、山口市役所の皆さんが情報提供してくれる信頼度が上がれば、私たちもそれにちゃんと見習ってついていきますし、ちゃんと情報は信用が得られるのだということで、私たちも安心して、インスタなどの、またホームページ、またそういった情報系を私たちからも山口のファンとして流すことができるのではないかなと思っております。 　情報が届けば人が動く、人が動けばまちが動くと信じておりますので、山口市役所にお勤めの皆さん、数年ごとに部署異動がありますが、山口市役所を一つの素晴らしい箱として捉えていただけたら、それを私たちは受け取りたいなと思っております。 　お時間が来ました。すいません。長くなりました。ありがとうございました。 <u>(4)意見交換</u> 【会長】 　柴田委員、どうもありがとうございました。ただ今のご説明に関しまして、ご質問等がありましたら、よろしくお願いいたします。それでは、改めて意見交換の時間を設けさせていただきますので、ご質問等ございましたらよろしくお願いいたします。 　概ね1時間が経過しましたのでここで休憩を設けたいと思います。 【会長】 　定刻となりましたので、会議を再開させていただきます。 　それでは、議事4の意見交換に入ります。これまで、事務局からは、資料1に従いまして、まちづくりの状況(安全安心・環境・都市分野)について説明がありました。委員の方からは、白石委員からは「これからの『地方』を考える」、柴田委員からは「『情報を出す』から『情報が届く』へ」ということで、話題提供がありました。全体のご質問や総合計画の策定に向けたご意見、ご提言等がありましたらいただきたく存じます。 【B委員】 　白石委員と柴田委員、ありがとうございました。白石委員の量的な指標についてのお話は、とても参考になりました。ただ、国の事業だと、すごく高いKPIを求められたりするので、そういったところから変えていかないと、根本的なところで難しいところがあるのではないかなと思いました。柴田委員からのメディアの立場からの貴重な意見、ありがとうございました。 　1点だけ、お伝えしたくて手を挙げたのですが、立て看板について、社会が変わっても変わっていないものはとても多くて、ここで伝えたいという看板があるのですが、私が住んでいる地域、平川地域の幹線道路に、「子育ては親の責任、地域の支え」という看板が、ご存じの方は知っているかもしれませんが、バンと建っているのですね。社会

	がこんなに変わってもあんな大きな文字で看板があるなんていうのは、すごく気になっていて、若い人が見たら、本当に子どもを産みたくないと感じる人もいるのではないかと思っています。 　市の管轄ではないかもしれませんが、社会が変わっていることを伝えて、どうにかしてほしいなと、今お話を聞いて、改めて思いました。以上です。 【会長】 　看板についてのご提案がありました。それに関連して、ご意見がありましたら、よろしくお願いいたします。 【C委員】 　私は、古い看板はレトロだなと思ったりして、おじいさんの絵とか、昔はこうだったとか、意外と若い子は、それを面白がったりするのではないかなと。先ほどのB委員がおっしゃったような、ちょっと時代に合っていなくて、これはねというものと、これは古くてもそれはそれで味じゃないかというものと、なかなか看板も高いですので、それならベンチを作るべきなのか、看板を作り直すべきなのか、何かどこもかしこもすごくおしゃれな感じにならなくてもいいと思っています。何かその辺りの方針というか、分類していく指標みたいなものがあればいいなと思いました。 【会長】 　ご意見ありがとうございました。それにまた関連して、何かご意見、ご質問等がありましたら、よろしくお願いいたします。 　重要なのは看板に掲載している情報かなと思います。あとは安全性ですね。その看板に不備があるのではないかというところも大きなキーワードだと思います。 【D委員】 　今日のご発表ありがとうございました。白石委員の発表の中で感じたのは、新しい地方論という中で、公教育、学校というところです。その中で、小規模の学校はたくさんの大人に丁寧に育ててもらうことが豊かなのではないかという問いかけがあり、私もそのとおりだと、一つは思っています。 　私自身は、山口市の教育委員をさせていただいて、10年くらいになるのですが、そこでいろいろな小学校を見せていただいて、私の子どもは、いわゆるマンモス校と言われる、市内有数の人数が多い小学校、中学校で育ってきました。でもその一方で、教育委員としていろいろな学校を見せていただくと、全校児童が10人くらいの学校とかたくさんあるんですよね。そんなところを自分は全然知らなくて、もし自分の子どもが、そこで育っていたら、もっと違う育ち方をしたのではないのかなと思うこともあります。大勢の大人の中で、地域の中で育てていただくということはすごく素敵だなと思うのですが、ただ一方では、複式学級になっている、あるいはなっていなくても、1学年1人とかで、先

	生と1対1みたいな授業をしているところもあって、これは子どもたちが将来必要となるものを本当に学んでいけるのかなというふうに考えたりもしました。 　そうした中で、例えば、山村留学というのが少し流行っているのですが、山口市内で選べたらどうだろうと思います。例えば南部地域とか、鋳銭司とかあのあたりに行くとすごく子どもが少ないのですが、車で行けば、通うのはすぐです。例えば大きい学校で不登校になってしまった子たちがそういうところに行けたりとか、例えば阿東とか、徳地とかも小さくてよい学校はたくさんあるので、よそから呼び込むのではなくて、市内でもそのあたりの選択制というのがあったら、その子に合った学校に進んでいけるのではないのかなと、そう考えると統廃合してしまうのは、もったいないなとちょっと思ったりもしました。 【会長】 　どうもご意見ありがとうございました。今のご提案というのは、校区の緩和だと思います。それに関しまして、ご意見等ありましたら、よろしくお願いいたします。 　本日、事務局に教育委員会の方は参加されていないでしょうか。それでしたら、今のご提案は第5回の時に、改めてご提案いただければと思います。 　白石委員、よろしくお願いいたします。 【白石委員】 　ありがとうございます。まさしくそんな議論も始めるというのが大切かなと思っていまして、その地域地域によって、どうありたいかとか、あるいは子ども視点でどうありたいかとか、空間をどう作っていったらいいかというのは、もうそれぞれだと思っています。それは自治体によっても違うし、自治体の中でも違うと思うので、今おっしゃったことは、何かできそうなのにできていないというか、実はちょっとそういうところを変えるだけで、ものすごくドラスティックな大きな変化が、子どもにとっては、あるいは地域にとっては、起こることかなと思うので、それぞれの地域でどうありたいかということをやっぱり話していく。それを市内の中で、自治体の中でさらに展開していく、議論を発展させていくということが大切かなと思って、私も今のお話、すごくなるほどなと思いました。私も考えたことがなかったです。ありがとうございました。 【A委員】 　白石委員、柴田委員、どうもありがとうございます。白石委員のおっしゃった地域の主体性というのは、本当に大事だなと思っていて、そのフィルターを使うと柴田委員のご意見もまた、いろいろと考えるところがあるなと思いました。 　というのは、どちらも本当に重要で、学生に聞いても、イベントの情報も知らないし、山口県内の見るべきところとか、豊かなところも何も情報を持っていなかったりして、本当に情報っていうのは大事だと思う一方で、情報を何でも受け身になって、情報が来てくれるものだと思っている学生についても、どうかなと思っていて、白石委員がおっしゃ

	ったように、自分たちで情報を取りに行ける主体性が必要、あるいは地域に残す情報を選ぶ、そういう主体性も大事なのかなと思いました。 　思えば看板も先ほど白石委員がおっしゃったように、どんな看板を残したらいいのかとか、看板よりも、後ろにある景観の方を残したいのか、そういういろいろな選択肢があるのかなと思いますし、そういうことも含めて地域である程度議論したり、その地域に住んでいる人たちで意見を言ったり、手で作っていったりできるような、仕組みがあるといいなと思いました。以上です。 【会長】 　どうもありがとうございました。それに関しまして、柴田委員、白石委員、何かコメントやご意見はありませんでしょうか。 【柴田委員】 　本当に一つ一つ、細かに見ていくとストーリー性というのは絶対あると思うのです。ここにバス停がある、ここの看板、それはいつ作られて、どういう意図で作られているのか。 　でも経年劣化でどんどんと破損したり、球切れしたりして、闇に忘れ去られるような、時間帯によりますが、本当に細かなことを言ってしまうと全部住みにくさにつながっていってしまっているような感じがあるんです。やはり安全性というところも無視できないですし、それによって、私は、いつもインスタの方をやらせていただいているのですが、ここのところの写真を撮って出したくはないのです。山口市という観光のところを考えて「住みよいまちだよ」と拡散したいな、発表したいなと思っても、どうしてもこういうところが映り込んでしまったり、そういうところがすごくもったいないと思います。若者に山口にとどまっていただきたい、「山口はいいところだよ」とかそういうところをどんどん発信していきたいのですが、こういうところが目立ってしまう。 　やっぱりそういうところというのは根底にあって、山口というのは、観光客、デスティネーションキャンペーンももう間もなく始まりますけれども、そういった方たちが来た時に、歩きづらい、見にくい、読みづらい、分からない、情報が本当に分散していて、欲しい情報が手に入ってこない、もうすべてに共通していくところが、こういう小さな当たり前のことができていないということがすごく多いという印象を受けているのです。 　そしてメディアとの関連もそうなのですが、例えば昨年、映画の撮影の協力をした湯田温泉、4か月くらい協力したのですが、そういったところが、今うまく生かされていない。映画の聖地、撮影の聖地という、またいろいろな情報で、細かな情報を見ていくと、大好きな俳優さんが来ていたとか、そういう聖地巡礼みたいなところも、今、若い人たちはすごく気になっていて、そういう情報が欲しいのだけど、そういう情報を出してこない。ただお店の人も、有名な方々が来て、こういうご飯を食べてくれたという情報がすごく入ってくるのです。そういうところをうまくもっとファン化、そして推し活にうまくつなげていって、それがまちに来た時に、きれいなまち、素敵なまち、レトロもいいのです。そ

	ういう分野をうまく使い分けていくと、山口はもっと活性化していくのではないかなというところは思っております。 【白石委員】 ありがとうございます。今、柴田委員の話を聞いていて思ったのは、やっぱりどういう人たちに来てほしいか、どういうまちにしていきたいか、何を残していきたいか、どういった豊かさを我々は目指すのかといったときに、観光客という一つのくくりもあると思いますし、あるいは、我々が考えるような豊かさとか価値観を共有、あるいは一緒に描いてくれるような、若者に来てほしいのか、そのターゲットによって、おそらく出していく情報もその出し方も違うかなと思います。 今日、あまり紹介はできなかったのですが、秋田県五城目町という、人口8，000人のまちで、ものすごく面白いことをやっているのですが、そこは何か、引退した人とか、ちょっと田舎で何かやりたいみたいな人は来なくていいと言って、すごく割り切っています。その代わり、こういう人に来てほしいとか、あるいはこの本で紹介してくれた先生がよく言っているのは、8，000人のまちに一人の移住者とか、誰かが来ることのインパクトと、20万人のまちに一人来ることのインパクトは大きく違うので、小さなまちというのは、来る人のインパクトも大きいし、あるいはまちを動かす方の行政の職員さんとかも、例えば何人かが思いつけば、すごく面白いことができるわけです。 なので、ここは県庁所在都市で、地方都市の中では、大きなまちだと思うのですね。そういった中で、総花的になりがちなところを、総花的にはなると思うのですが、何か少し切り分けながら、「引退した人は来なくていい」とかなかなか言いづらいくらい大きなまちだと思うのですが、大きなまちの動きにくさ、動きづらさみたいなものを、我々がどう主体性を獲得しながら頑張って考えていくか、みたいなことが重要なのかなと今思いました。 【会長】 どうもありがとうございました。 【E委員】 白石委員、それから柴田委員、情報提供どうもありがとうございました。とても興味深く聞かせていただきました。 柴田委員のほうは、観光等を含めて、情報を出す、届けるというSNSの話で、非常に興味深いところで、我々もやっぱりどこか観光地に行くと、まず、SNSの情報で何があるのかななんていうことがあって、観光客にとっては、そういう意味がありますし、住んでいる人にとっても、今何が起こっているのかなということは、とても大事なことかなと思います。一方で、柴田委員もおっしゃいましたが、やっぱり年齢層の差もあって、たぶん60代くらいはSNSを使いこなす人が多いのですが、70、75歳くらいになってくると、そこまで使いこなせていない世代がある中で、福祉で、情報を届けにいくのは、なか

	なか難しくて、そうなると、柴田委員がおっしゃったように、やっぱり市報とかそれから交流センターの情報という、紙媒体の情報の重要性というのは、まだまだあるのだろうなと思います。世代によるのか、地域性もあるのかもしれませんが、そういったものも大事にしていく必要性もありつつも、子育て世代は非常にそこを活用している世代でもありますので、その辺はどうしていくべきなのかも、考えていかないといけないのかなと思ったところであります。 　それから白石委員のほうについては、私の領域は地域福祉なので、まちづくりは非常に近いところがありまして、私の恩師なんかも社会教育の専門家だったりするのですが、社会教育なんかを含めて、今、山口県はコミュニティスクール構想を全国に先駆けて幅広く展開していったところですが、なかなか福祉とコミュニティスクールは山口市ではつながっていないのです。つなげるというのは、テーマとして取り上げていなくて、先週、私は宮崎県の都城市にいたのですが、都城市というのはコミュニティスクールと福祉教育を非常にうまくつなげながらやっている小学校、中学校が結構あったりして、そういうコミュニティスクールの仕組みも上手に使っていくと、またいろいろとできていくことがあるのかなと思ったりしながら、公教育のところで少し感じたところではあります。 　いろいろな全国の事例がある中で、この辺の事例も面白そうだなという事例もあったりしましたので、それがどういうふうに、山口市に適用可能で、展開できていく可能性があるのかということが、もう少し具体的なものがあったりすると、非常に市への適用可能性というのは、どの事例でもどうしても考えるところがあって、今、都城市の話をしましたが、福祉教育をそこでやっているからといって、それが即山口市の方に導入できて、展開できていくかというとなかなかその辺は難しいところがあって、理解はしているところになりますので、ではどういうふうな形で展開の可能性を計画の中に盛り込んでいくことができるのか、またこういったところが山口市に適用可能ではないかということも、もし今後、今日というわけではないですが、また機会があるところで、ご意見が出てくるといいな、なんて思いながら話を聞かせていただきました。 【会長】 　ご意見どうもありがとうございました。白石委員からはコメントはありますでしょうか。 【白石委員】 　私は教育の専門家ではないのですが、まちづくりが何か面白かったり、結構、ドラスティックというか、そういうことをやっているところを見ていくと、やっぱり公教育に最後行きついているのを見て、公教育とか、その空間というのは、特に小さな地方にとっては大切なんだなと感じているところです。私もいろいろ勉強させていただきたく思います。 【会長】

	どうもありがとうございました。それでは、全体を通して、第1回、第2回も踏まえまして、第3回までを振り返って、新たにご意見やご要望がありましたら、ぜひよろしくお願いいたします。 【F委員】 お世話になります。今日も情報提供をありがとうございました。 私からは、ずっと元気な山口プラン、資料1の19ページについて少しお話をさせてください。 私、徳地地域に住んでおりまして、徳地地域には上下水道がありません。そうした中で、いろいろ支援をいただいたり、合併処理浄化槽の設置への助成もいただけるような仕組みが出来上がっており、大変ありがたく思っております。 その中で、この酷暑の中、山から水を引かれて生活を続けてこられている方が水を引けなくなったり、ご高齢の方が「私一人が暮らすこの家のために、ボーリングをするお金は出せないから、どこかに出ていこうと思うのよ」というような、結構切実な声がここ数年の暑さの中で増えてまいりました。ですので、合併処理浄化槽の設置に対する助成等もありがたく思うのですが、井戸枯れ、山からの水枯れに対しても、市の方で少しお心配りをしていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。 【会長】 ただいまのご意見については、事務局から特に回答を求めなくてもよろしいでしょうか。「ご検討ください」ということでよろしいでしょうか。 【事務局】 現在、井戸に関する補助金などはあるのですが、なかなかその金額が十分なのかどうかとか、いろいろありますし、また、地域によっては、昔から水質の課題などもあり、様々な課題がある中で、行政としても課題として受け止めておりますので、今後もしっかり検討していきたいと思います。 【F委員】 気にかけていただいているということで、ありがたく思っております。そういう生活の基本となることが理由で、そこで暮らしたいのに出ていくことを考えなければいけないということは、できればない方がよいと思いますので、今後ともどうぞご検討のほど、よろしくお願いいたします。 【会長】 ご意見、どうもありがとうございました。ぜひ、ご検討のほど、よろしくお願いいたします。 他の話題等も含めまして、ご意見等ありましたら、よろしくお願いいたします。

【G委員】
古い看板を若者が楽しんだり、「あそこ、こんなになっているよ」みたいなことにもなるかなと思うのですが、私たちの感じ方とお若い方の感じ方は違うような気がしますし、デジタル分野を専門とする委員さんだとか、そういう方々の率直なご意見や、普段の日常生活の中で感じていることなどを、この機会にお聞かせいただけたら嬉しいなと思ったのですが、いかがでしょうか。

【会長】
はい、ご意見ありがとうございました。ぜひよろしくお願いいたします。

【H委員】
友達にはレトロな看板が好きな人が結構多くて、観光しながら「めっちゃ古い、いい感じの看板がある」と写真を撮ることがよくあります。その一方で、情報が古いと、やっぱり困ることもあります。例えば、写真にある八坂神社とかの看板、大内ルートの看板は文字が削れて見えにくくなっているところがありますし、「小郡駅って何それ」と山口に最初に来た時に思ったこともありました。おじいちゃんから「もともと小郡駅だったのよ」と聞いて、ようやくわかったのですが、そういった必要な情報は新しいものに変えていただきたいと思います。
あと、「子育ては親の責任」という言葉には、すごくショックを受けました。子育てに関する言葉に敏感な人も周りに多く、そういった表現をすごく気にするので、そうした言葉は印象に残りやすいと思います。
また、情報発信についてですが、去年初めてちょうちん祭りを知ったのも、観光客に「何か祭りがないか」と聞かれて調べたことがきっかけでした。調べてみると、山口市にはいろいろなお祭りがあって、すごくいいなと思ったのですが、調べるまでは知らなかったということがあります。
あとは、今はインスタグラムやショート動画をよく見るので、そういった短い動画で情報を発信することも大事ですし、需要があると思います。

【I委員】
情報についてですが、私は山口で暮らしていて、必要な情報をつかむのが、すごく下手な方だと思っていて、インスタとかも見ることは見るのですが、あまり活用できているかというとそうではありません。でも、欲しい情報を検索しようと思ったときに、自分が想像しているというか、求めている情報になかなかたどり着けないという感覚は、すごくよく分かります。必要な情報が一覧で見られたりしたら一番いいのになと思うこともたくさんあります。特にイベント情報とか、タイムリーな情報は、日にちが過ぎてしまったら全然意味のない情報になってしまうので、これから開催されるイベントの情報や、今日何があるのかといった情報を効率的につかめるようになったら、それはすごくいいなと

	いうふうに思いました。 【J委員】 　デジタルの観点の話でいうと、まず情報に関しては、皆さん、もうご承知だと思うのですが、デジタルですべて対応できるかというと、そうではありません。先ほどお話がありましたが、高齢者の方々に対して、何が一番情報を届けやすいかというと、市報であったりとか、そういったものも当然あると思うので、その辺は、ハイブリッドというか、組み合わせた形になるのかなというふうに思っています。 　その中で、どう情報を伝えていくか、届けるかみたいな話については、これも時代の変遷によって変わってきているのかなと思っていて、ホームページとかウェブが普及してきたときには、ホームページで情報を探す、要はグーグルで検索して探しにいくという形だったと思いますけど、今でいくと、たぶん若い方は、先ほどお話があったように、インスタのショート動画などで情報が流れてきたりするということもあります。やはり、その方々が例えば山口に住んでいて、山口について検索することで、逆に関連する情報が入ってくるという仕組みにもなっているところがあって、たぶんその辺りの技術の進展と、あとは対象とされる方にどう届けるかということを組み合わせながら、我々も情報を提供していかないといけないかなというふうに思いますし、昔は、ホームページで、テキストベースで伝えることが多かったのですが、ムービーで伝えるほうがすっと入ってくると思ったりしますし、ご高齢の方に関して言うと、それでも見られないので、本当にチラシとかで情報を届けた方がいいという話になると思いますので、昔よりも媒体が増えた分、考えないといけない部分が多くなってきていると思います。その辺りはハイブリッド方式にすべきかなというふうに思います。 　最後に、先ほど情報がまとまっているといいというような話がありまして、その辺りはうまくできればなと私も思いまして、イベント情報とかは、本当はどこかに集約されるとよいのですが、観光の方とか、行政の例えば学校関係の方とか、たぶんそれぞれの範囲で情報発信されるのですが、そこをうまく横断的に共有できるような仕組みは、技術的には可能だと思います。ただ、なかなかその組織の壁だったりというか、取組や事業間のつながりを強くしていかないと難しい話かなと思うので、これは、誰が悪いという話ではなくて、それはたぶん、どこでも課題として持っていらっしゃるはずなので、その辺りを今後のまちづくりの中でうまく織り込んでいければいいかなと思いました。 【G委員】 　ありがとうございます。あと、私もちょっと大学に関わったりとかするのですが、やはり、山口大学、山口県立大学、学芸を含め、若い人たちがたくさんいるまちなので、ぜひ大学側にも、ちょうちん祭りをやっていることなど、いろいろな情報を伝えて、学生の皆さんに住んでいるまちを知っていただく工夫を何かしていただきたいと思います。そして、まちを楽しんでいただいて、ぜひこの機会に市民になっていただけたら嬉しいなと思うので、そういうアプローチはすでにやっておられるとは思いますが、もう少し強化し

	ていただけるといいなと思っています。よろしくお願いします。 【会長】 どうもありがとうございました。他はありませんでしょうか。 最後に私の方から一言、ご意見を述べさせていただければと思います。 本日はどうもありがとうございました。事務局からのご説明に関しまして、決して今、答えをくださいということではないのですが、私も市民として気になるのは、2大都市核という意味では、山口市の湯田温泉、中心市街地側と小郡地区ですよね、新山口地区。例えば、この新庁舎ができるときもいろいろ議論されたと思うのです。毎回毎回、そういうところでケースバイケースで考えるのか、または2拠点について、初めからもっと明確に理由付けをしておくのか。今日の説明でもバックグラウンド、理由付けはあったのですが、おそらく新しいことが起きたときに、どっちにするかという議論が今後何回も起こるのではないかなというところが、懸念というよりは、どう考えていくのでしょうかということが、ちょっと気になっているところです。 二つ目は、今日いただいた資料についてですが、例えば19ページの、先ほどご提案というか、ご意見があったところですが、パーセンテージ、目標値に対する達成度には、例えば能動的なものと受動的なものがあると思います。そのように申し上げるのは、例えば観光客が増えるというのは、いくら頑張っても結果的にどうなるか分からないですね。ところが、整備というのは、例えばお金があればできるのではないか、もちろんその他の環境もいろいろあると思うので、その辺のところを区分して、努力として成果が出ることなのか、努力として成果が出にくいものなのか、そこはきっちり分けた目標設定なり、活動目標なりを設定し、活動につなげた方がいいかなというのが、私からの意見です。 二人の委員の説明というか、今日の情報、話題提供に関しまして、白石委員に関しましては、これからの地方を考えるというところで、ご自身の活動、経験を踏まえてご提案いただきました。おそらく、地域という少しやんわりとした、ソフトな表現でお話しいただいたのですが、今日、本当は聞きたかったのは、究極のところ、山口市に本当に必要なものは何なのかとか、決して今、ご回答をいただきたいということではないのですが、そういうところを知ることができたらありがたかったかなというところです。地方というところで大きくまとめるのではなくて、究極の山口市というところについて、もちろん構想等、ご意見等はお持ちかなと思っております。 柴田委員におかれましては、情報の分散に対する手段とか、看板とか、すごく看板が印象に残りました。ただ、これは、今後、実際にどうしたらいいのかという具体的な取組につなげていくことが必要かなと非常に感じています。答えは持っていません。決して市がリードするという答えではないと思うのですが、では、解決に向けて我々に何ができるのだろうか、そこはこの会というよりは、個人も含めて考えていければなと思っております。決して答えのない意見で申し訳ありません。 私からは以上を意見として述べさせていただきます。

	それでは、続きまして、次第4、今後の日程につきまして、事務局からご説明をよろしくお願いいたします。 4　今後の日程 【事務局】 次回、第4回の策定協議会は10月23日金曜日の午前10時から開催いたします。場所は6階の会議室603で開催させていただきます。日程が近づきましたら、また事務局からお知らせいたしますので、よろしくお願いいたします。 また、ご意見や、本日ご発言できなかったことなどがありましたら、お手元の資料6の意見書を提出いただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。 【会長】 どうもありがとうございました。ただいま事務局からご説明がありましたように、ご意見、ご質問などにつきましては、意見書にご記入いただき、事務局までご提出をよろしくお願いいたします。 それでは、第3回の山口市総合計画策定協議会を終了させていただきたいと思いますので、事務局に進行をお返しいたします。よろしくお願いいたします。 5　閉会 【事務局】 重松会長ありがとうございました。皆様には長時間にわたりまして、ご協議をいただきましてありがとうございました。 それでは、以上をもちまして、第3回山口市総合計画策定協議会を終了させていただきます。大変お疲れ様でした。
会議資料	・次第 ・資料1 「(仮称)ずっと元気な山口プラン」(次期山口市総合計画)について ・資料2　白石　レイ　委員提供資料　※ ・資料3　柴田　まゆみ　委員提供資料　※ ・資料4　委員名簿 ・資料5　配席図 ・資料6　意見書 ※資料2～資料3については、協議会委員のみへの配布とします。
問い合わせ先	総合政策部　企画経営課 TEL 083－934－2747